

ヴェーダ学習と誓戒

梶原三恵子

1. 序

インドに残る最古の宗教文献群ヴェーダは主として口承で伝えられ、正しい入門の手続きを経た弟子にのみ、師匠によって講じられるものであった。ヴェーダを学習する際には定められたマントラを唱え、生活制限を遵守し、学習という重要事業への準備をする必要があった。こうしたヴェーダ学習のための準備として、数種類の誓戒が学習の対象箇所ないし学習段階に対して挙げられることがある。それらは学習ヴラタ (vedavrata) と総称され、後期ヴェーダに属するグリヒヤーストラ群に主に記述されている。¹⁾

学習段階に応じてヴラタを行なうというシステムはしかし、すべてのグリヒヤーストラに完備されてはおらず、諸学習ヴラタの内容および名称も学派ごとに大きく異なり、学習ヴラタと総称されてはいるものの、その実情はばらばらの印象を与えている。ヴェーダ聖典の伝承が師匠から弟子への教育に依っていた以上、その学習課程の整備は、それを伝承するバラモンたちにとって重要であったはずであるが、なぜ、学習ヴラタがそのような不完全な状態にあり、その規定のされかたもヴラタの名称と内容も学派によって異なるのか。本稿の目的は、グリヒヤーストラに見出される学習ヴラタの規定を、グリヒヤーストラ以前ないし以後の文献にみられる資料およびグリヒヤーストラ内の関連する記述とあわせて、学派ごとに整理することによって、この点を見定めることにある。

2. 学習ヴラタの背景

ヤジュルヴェーダに属するヴァーージャサネーイン派ブラーフマナの補遺部分およびカタ派のブラーフマナ断片の一部が保存している入門式に関する断章には、学習に伴う誓戒の原型とみられるものが現われる。入門式ではサーヴィトリ²⁾という特別に神聖視される詩節が教えられるが、これらのブラーフマナによると、これに先立って学生は一年ないしこれと同置される三夜などの準備期間³⁾を経る。これは、アタルヴァヴェーダからみられる「入門時には三夜のあいだ師の胎児となってから学生として新生する」(AVŚ 11, 5, 3/AVP 16, 153, 2)という古い観念を反映したものとみられる。その背後には、一定の準備期間を過ごさせることによって、学生をヴェーダ学習にふさわしく聖別するという意図が見てとれる。入門式においてサーヴィトリ⁴⁾学習の前に一定の期間を置く習慣は、半数近くのグリヒヤスートラにも受け継がれる。

さらに、学習ヴラタの形成に関与した可能性のあるものとして、ウパニシャッドにみられる入門の挿話が示す当時の習慣をあげることができる。別稿で論じたように⁵⁾、ブラーフマナ新層からウパニシャッドには、それまでに知られていなかった新しい秘儀を学ぼうとする者が、それを教わるにあたって簡略な入門の儀礼をその都度あらたに行なったという挿話が数多く伝えられている。次節で述べるとおり、グリヒヤスートラの学習ヴラタには、ヴラタの教示を入門の儀礼によって行なう、すなわちヴラタにおいて入門式を再び行なうと規定するものがあるが、これは、ウパニシャッドにみられる、新たな事項を学習するたびに再び入門を行なった習慣を継承したものとみることができる。

3. 各学派の学習ヴラタ

各学派の定める学習ヴラタは以下のとおりである。グリヒヤスートラ以外にも関連する規定をもつ文献がある場合はそこからの情報もあわせて提示する。

リグヴェーダ：アーシュヴァラーヤナ派

この学派では以下の学習ヴラタがシュラウターストラとグリヒヤーストラに見出される。

mahānāmnī (ĀśvŚS 8, 14, 2ff.)

mahāvratā* (ĀśvŚS 8, 14, 19)

upaniṣad* (ĀśvŚS 8, 14, 19)

godāna (ĀśvGS 1, 18, 9)：一年

最初の三つはシュラウターストラの Mahāvratā 祭の章 (ĀśvŚS 8, 14) に規定されている（ただし*印を付した mahāvratā, upaniṣad は暗示されるのみで、名称は注釈にのみ挙げられている⁶⁾）。グリヒヤーストラは、16歳で鬚を剃る儀礼である Godāna に関して一年間のヴラタを定めているが、学習との関連は暗示されるのみである⁷⁾。グリヒヤーストラはこれ以外に学習ヴラタに直接言及しないが、入門式の章 (ĀśvGS 1, 19-22) 末尾近くにはめこまれている学習の各項目を終える儀礼 (Anupravacanīya) の後にヴラタ（名称は示されない）が規定されている（1, 22, 19-20⁸⁾）。また、入門式そのものをヴラタの教示 (vratādeśana) とよび、以前に入門したことのない者と入門したことのある者にわけて説明している（1, 22, 22-29⁹⁾）。注釈の段階になると、上にあげた四つがこの学派の学習ヴラタとして列挙されるようになる¹⁰⁾。

リグヴェーダ：シャーンカーヤナ派/カウシータキ派¹¹⁾

これらの学派のグリヒヤーストラは、以下の学習ヴラタを列挙している¹²⁾。

ŚāṅkhGS

KauṣGS

śukriya (ŚāṅkhGS 2, 11, 9)

śukriya (KauṣG 2, 7, 8)：三夜／十二夜／一年

godāna (KauṣG 2, 7, 15)：三夜／十二夜／一年

śākvara (ŚāṅkhGS 2, 11, 11)

śākvara (KauṣG 2, 7, 16)：一年

vrātika (ŚāṅkhGS 2, 11, 12)

māhāvratika (KauṣG 2, 7, 16)：一年

aupaniṣada (ŚāṅkhGS 2, 11, 12) aupaniṣada (KauṣG 2, 7, 16)：一年

学習ヴラタに関して、ヴラタの教示は入門式の儀礼行為の一部を繰り返すこと

によって行なわれると規定されている (ŚāṅkhGS 2, 11, 1-4; KauṣGS 2, 7, 1-4)¹³⁾。

サーマヴェーダ：カウトウマ・ラーナーヤニーヤ派

この派に属する二つのグリヒヤーストラは以下の学習ヴラタを挙げる。¹⁴⁾

godānika (GGS 3, 1, 1-29; KhGS 2, 5, 1-17 [godāna])：一年

vrātika (GGS 3, 1, 28-29; KhGS 2, 5, 17)：一年

ādityavrata (GGS 3, 1, 28; 30-33; KhGS 2, 5, 17-21)：一年

aupaniṣada (GGS 3, 1, 28; KhGS 2, 5, 17 [upaniṣad])：一年

jyeṣṭhasāmika (GGS 3, 1, 28; 3, 2, 54; KhGS 2, 5, 17)：一年

mahānāmika (GGS 3, 2, 1ff.; KhGS 2, 5, 17; 22-33 [śakvarī])：

十二年／九年／六年／三年／一年

これらの他に、入門式の後には三夜のヴラタが規定されている。¹⁵⁾ Godāna では上記の一年間のヴラタと共に入門式を再び行なうことが指示されている。¹⁶⁾

サーマヴェーダ：ジャイミニーヤ派

この学派のグリヒヤーストラは以下の学習ヴラタを規定している。¹⁷⁾

gaudānika (JGS 1, 16: 15, 4; cf. 1, 18)：一年

vrātika (JGS 1, 16: 15, 4; 8)：一年

ādityavrātika (JGS 1, 16: 15, 6; 8)：一年

aupaniṣada (JGS 1, 16: 15, 9)：一年

mahānāmika (JGS 1, 17: 15, 10)：十二年／九年／六年／三年／一年

入門式では、三夜を過ごしてから（あるいは同日）サーヴィトリを学んだ後、¹⁸⁾ 三夜のヴラタが規定される。Godāna の儀礼自体はヴラタの章より後で扱われ、¹⁹⁾ 儀礼の前には入門を再び行なうことによりヴラタ教示が行なわれる。

黒ヤジュルヴェーダ：カタ派

下記のカタ派の学習ヴラタのうち、グリヒヤーストラにみられるのは最初の二つだけである。²⁰⁾ *印を付したその他のヴラタは注釈 (D: Devapāla 注) および

後代の綱要書 (U: Upanayanavidhi) にみられるものである。²¹⁾

traividya (KāthGS 42, 1-4; D, pp.38-40; U, pp.88ff.)

cāturhautṛka (KāthGS 43, 1-11; D, pp.41-51; U, pp.96ff.)

pravargyavrata* (D, pp.51-87 [pravargyamantra]; U, pp.103ff.)

aruṇavrata* (D, pp.87-92 [aruṇamantra]; U, pp.122ff.)

aupaniṣadavrata* (D, pp.92-104 [āraṇyavrata]; U, pp.129ff.)

cāturhautṛka [-vrata] の前には入門が再び行なわれたようである。²²⁾ ヴラタに続く章で扱われる Godāna も、学習課程との関係が示唆される。²³⁾

黒ヤジュルヴェーダ：マイトラーヤニーヤ派

この学派に属するマーナヴァ派とヴァーラーハ派のグリヒヤーストラはいくつかの学習ヴラタに dīkṣā (潔斎) という語を用いる点で特徴的である。Pravargya 祭の学習に関してはマーナヴァ派はシュラウターストラの記述に依拠している。²⁴⁾ traividya は再度の入門を伴ったようである。²⁵⁾ また両グリヒヤーストラとも Godāna と学習課程の関係を示唆している。²⁶⁾ ヴァーラーハ派は入門式の後に十二夜のヴラタを規定している。

cāturhautṛkī dīkṣā (MGS 1, 23, 1-4; VārGS 7, 1-3 [cāturhotṛkī]): 一年

āgnikī dīkṣā (MGS 1, 23, 4-13; VārGS 7, 4 [āgnivrata]): 十二夜

āśvamedhikī dīkṣā (MGS 1, 23, 14-20; VārGS 7, 4): 十二夜

rahasya/pravargya (MGS 1, 23, 21-23; VārGS 7, 17-22)

cf. avāntaradīkṣā (MŚS 4, 7, 1-9)

traividya (MGS 1, 23, 24; VārGS 7, 16)

黒ヤジュルヴェーダ：タイッティリーヤ派

タイッティリーヤ派には多くの分派のテキストが現存し、分派ごとに学習ヴラタの扱いも異なる。まず、パウダーヤナ派は学習項目 (kāṇḍa) を神格ごとに列挙したのち、次の学習ヴラタを挙げる。²⁷⁾

hotāra (BaudhGS 3, 2, 5-26): 一年

śukriya (BaudhGS 3, 2, 27-28) : 一年

cf. avāntaradīkṣā (BaudhŚS 9, 19; cf. BaudhGS 3, 4, 1-36)

upaniṣad (BaudhGS 3, 2, 29-51) : 一年

godāna (BaudhGS 3, 2, 52-57) : 一年

sammita (aṣṭācatvāriṃśatsammita; BaudhGS 3, 3, 1-31) : 一年

ただし、最初の三つのヴラタに対して、四つめの godāna は扱いが異なり、剃髪28)の儀礼として扱われ、学習との関係は暗示されるのみである。この学派の入門式では、サーヴィトリの学習に関連して sāvitra-vrata が、また入門式の最後には三日ないし三夜のヴラタが、それぞれ規定されている。

一方、バーラドヴェージャ派は、学習ヴラタを列挙はしないが、ヴラタ教示の章 (BhārGS 3, 4-5) で hotṛ と upaniṣad のためのヴラタに関するマントラを挙げ、学生心得の訓示も行なう。続く章 (BhārGS 3, 6-7) では avāntaradīkṣā29) を扱う。また、Godāna と学習課程の関連も示唆される。入門式の最後には三夜30)のヴラタが規定されている (BhārGS 1, 10: 10, 5)。

ヒラニヤケーシ派のグリヒヤーストラは学習ヴラタを述べていない。入門式31)の最後には三日間のヴラタが規定されている。入門を繰り返す場合について言及しているので、再度の入門を伴う学習ヴラタを予想しているとみられる。32)
また、Godāna の章では学習課程との関連が示唆される。33)

アーパスタンバ派のグリヒヤーストラも学習ヴラタを述べない。入門式34)では儀礼の最後近くで学生生活を訓示する直前に三日間のヴラタを規定している (ĀpGS 4, 11, 20-24)。Godāna では学習課程との関連が示唆され、ある人々は godāna-vrata を一年間行なうと述べる。35)

アーングニヴェーシュヤ派のグリヒヤーストラも学習ヴラタを述べない。入門式36)でヒラニヤケーシ派と同じく入門を繰り返す場合について言及しているの
で、再度の入門を伴う学習ヴラタを予想しているとみられる (ĀgGS 1, 1, 3)。
入門式の最後には三日間のヴラタが規定される (1, 1, 4)。学習の文脈で kāriri-
vrata という名が挙がるが詳細は不明である。37)

ヴァイカーナサ派の学習ヴラタは次のとおりである。38)

sāvitra-vrata (VaikhGS 2, 7-9)

prājāpatya-vrata (VaikhGS 2, 9)

saumya-vrata (VaikhGS 2, 10)

āgneya-vrata (VaikhGS 2, 10)

vaiśvadeva-vrata (VaikhGS 2, 10)

brāhma-vrata (VaikhGS 2, 10)

śukriya-vrata (VaikhGS 2, 11)

白ヤジュルヴェーダ：ヴァーージャサネーイン派

この学派はブラーフマナに Pravargya 祭について学習の方法と三日間のヴラタの記述を伝えている (ŚB 14, 1, 1, 27ff.)。グリヒヤーストラは学習ヴラタ⁴⁰⁾には触れない。

アタルヴァヴェーダ

カウシカーストラは学習ヴラタを述べないが⁴¹⁾、パリシシュタの一部は学習ヴラタ⁴²⁾を主題にしている。

以上の概観を通じて、学習ヴラタに関して次の知見が得られる。

(1) 学派により学習ヴラタの扱い方にばらつきがみられる。アーシュヴァラーヤナ派の場合、学習ヴラタを扱うのはシュラウターストラで、しかもヴラタ名が明示的に与えられるのはひとつだけであり、グリヒヤーストラでは Godāna という儀礼に関して学習に関連するヴラタが示唆されるのみで、四つのヴラタ名が揃うのは注釈の段階である。カタ派の場合は、グリヒヤーストラの段階では二つしかヴラタが明示されないのに対し、注釈段階でははるかに整った学習ヴラタ組織が見出される。タイッティリーヤ派のグリヒヤーストラはパウダーヤナとヴァイカーナサを除いてほとんど学習ヴラタを扱わず、しかもパウダーヤナ派は godāna を含む学習ヴラタ (BaudhGS 3, 2) を入門式 (BaudhGS 2, 5) や卒業式 (BaudhGS 2, 6; BaudhŚS 17, 39-42) とはかけ離れた

位置で扱っている。白ヤジュルヴェーダの場合は、学習ヴラタに関すると思われる記述はブラーフマナにしかみられない。

(2) ヴラタの名称を見る限り、godāna-vrata 以外は、学習内容は特殊な詩節、祭式、テキストと関連するものが多い。リグヴェーダ系学派では mahānāmni ないし śakvarī 詩節と Mahāvratā 祭、そしてウパニシャッドを学ぶためにヴラタが挙げられている。ヤジュルヴェーダ系学派では基本的に、caturohotṣ 詩節、Pravargya 祭、(おそらく) Agnicayana 祭、Aśvamedha 祭、ウパニシャッドを学ぶためにヴラタが挙げられている。サーマヴェーダ系学派は少し事情が異なり、それぞれのヴラタがサンヒターに集成されたサーマン群の順序と基本的に対応しているとみられる⁴³⁾。

(3) godāna-vrata で何を学ぶかは明らかでない。サーマヴェーダ系学派ではサンヒターの基本的部分を学んだとみられる。黒ヤジュルヴェーダ諸派には Godāna と Agni (おそらく Agnicayana) の学習とを結びつけるものが多い。Godāna 儀礼自体は鬚剃り式であり、16歳で行なう人生儀礼として確立していたために、これがヴェーダ学習のなんらかの節目とされた可能性がある。

4. 結 論

ヴェーダ学習をめぐる誓戒は、学派によって外観が大きく異なる。これは、各学派共通あるいは共同で行なうヴェーダ祭式自体ではなく、その学習課程をどう構築するかという各学派内部の事情により左右されるテーマであったからであろう。しかも学派によっては、学習ヴラタの枠組みはグリヒヤーストラの時点ではまだ完全には構築されていなかったとみられる。

学習ヴラタの多くは、基本聖典であるサンヒターとブラーフマナの中心部分の学習の諸段階と対応するというよりもむしろ、特殊な詩節 (mahānāmni/ śakvarī, caturohotṣ) ないし後期ブラーフマナからアーラニヤカ、ウパニシャッドといった比較的新しいヴェーダ文献にある特殊な祭式 (Mahāvratā, Pravargya) ないしテキスト (Upaniṣad, Rahasya) に対応するものが多い。これには以下の二

つの事情が考え得る。ひとつには、特殊な力を持つと考えられていたテキストないし祭式の学習には特殊な準備が必要とされたであろうということである。もうひとつには、第2節でも述べたように、すでに基本的な部分の学習を終えて卒業した者が再び簡略な入門儀礼を行ない、ヴェーダの比較的新しい部分（特に秘儀的な部分）を学ぶ場合があったことが背景にあり、その際にいわば前述の、入門式においてサーヴィトリ学習の前に一定期間をおいて準備したことを模倣して、（しばしば再度の入門を伴う）特殊な学習ヴラタを行なって準備したという可能性が考えられる。卒業してからも学ぶ場合があったこと、あるいはその裏返しとして、ヴェーダを完全に修了せずに卒業する場合があったことはグリヒヤおよびダルマ文献の随所に暗示される。グリヒヤスートラ以降には「三種の修了者 (trayaḥ snātakāḥ)」という表現が散見され、「知識の修了者（学習は終えたがヴラタは終えていない者）」(vidyā-snātaka)、「ヴラタの修了者（学習は終えていないがヴラタは終えた者）」(vrata-snātaka)、「知識とヴラタの修了者（学習もヴラタも終えた者）」(vidyā-vrata-snātaka)⁴⁴⁾をさす。これも学習ヴラタが必ずしもすべての学生が学習する対象とは対応せず、特殊な部分の学習に特にヴラタを要したことを示唆すると考えられる。

注

- 1) 「誓戒」(vrata-)の語は『リグヴェーダ』から現われ、古くは神々や人間の正しい振舞いの掟などを指したとされるが、中期ヴェーダ文献以降、特に宗教的実践における生活制限の遵守に関する誓戒をさすようになったというのが、これまでの研究者のはほぼ一致した見解である。vrata-の語義およびその変遷については、H.-P. Schmidt, *Vedisch vrata und awestisch urvāta*, Hamburg (1958); T. N. T. Lubin, *Consecration and Ascetical Regimen: A History of Hindu Vrata, Dikṣā, Upa-nayana and Brahmacharya*, Ph.D. thesis, Columbia University (1994); do., "Vratā Divine and Human in the Early Veda," *JAOS* 121 (2001), pp.565-579; M. Mayrhofer, *Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen*, Lieferung 18, Heidelberg (1995), p.594f. 一方 brahmacharya-「ブラフマチャリヤ、学生生活（場合によっては「禁欲」）」の語も学習の文脈で誓戒とある程度重なる意味で用いられることがある。この語は『アタルヴァヴェーダ』からみられ、しばしば tāpas-（「苦行」）とともに用いられて、一種の苦行的生活を指していると思われる：AVP 9, 18, 4; 9, 23, 2; AVŚ 7, 109, 7/ AVP 4, 9, 6; AVŚ 11, 5, 17-19/ AVP

- 16, 154, 7-9. また、通常はソーマ祭における祭主の潔斎をさす語である dikṣā-
も、本論で後述するように学習の文脈で誓戒と重なる意味で用いられる場合があ
る。vedavrata 全般については、R. Gopal, *India of Vedic Kalpasūtras*, Delhi
(1959), pp.306-320; P. V. Kane, *History of Dharmasāstra* II-1, Poona (1974²),
pp.370-373; J. Gonda, *Vedic Ritual. The Non-solemn Rites*, Leiden-Köln (1980),
pp.462-467; Lubin, *ibid.* (1994), pp.202-221.
- 2) ŚB 11, 5, 4 および Kaṭha-Brāhmaṇa 中の Upanayana-Brāhmaṇa (KaṭhB(u)). カ
タ派の入門式に関する断章については、梶原三恵子「ヴェーダ入門儀礼の二つの
相——通過儀礼と学習儀礼——」『佛教学セミナー』78 (2003), p.13, n.4参照。
- 3) ŚB 11, 5, 4, 6-12; KaṭhB(u) (Sūryakānta ed., *Kāṭhakaśaṃkalana*, p.50).
- 4) サーヴィトリ学習の前に一定期間をおくと規定するグリヒヤーストラとその
期間については、梶原上掲論文 p.14, n.9. サーヴィトリ学習前に三夜を過
す儀は、入門式で規定されていても、一部のグリヒヤーストラを除いて学習ヴラ
タの中に列挙はされていない (BaudhGS は学習ヴラタとは別に入門式の中で、
VaikhGS は学習ヴラタの中に、sāvitra-vrata を規定)。次節参照。
- 5) 梶原上掲論文 pp.6-9.
- 6) ĀśvŚS 8, 14, 2-19 mahānāmnīr agre /2/ 「まず mahānāmnī 詩節 (AitĀ 4)
を。」... eṣa dvayoḥ svādhyāyadharmah /19/ 「これが両者の自習のダルマであ
る。」Nārāyaṇa, Devatrāta の両注釈者は共に mahāvratā と upaniṣad の二つと解
する。
- 7) ĀśvGS 1, 18, 9 saṃvatsaram ādiśet 「[師は] 一年間 [の godāna-vrata を] 教
示すべし。」以下で述べるように、Godāna と学習課程とを関連づける学派が多
い。
- 8) ĀśvGS 1, 22, 19-20 ata ūrdhvam akṣāralavaṇāśī brahmacāry adhaḥśāyī trirā-
tram dvādaśarātram saṃvatsaram vā. caritavratāya medhājananam karoti 「その
後は、刺激物と塩を食べず、禁欲し、地面に寝る。三夜あるいは十二夜あるいは
一年の間。[この] ヴラタを行なった者に、Medhājanana (知力を生じさせる儀
礼)を行なう。」
- 9) ĀśvGS 1, 22, 22-24 etena vāpanādiparidānāntam vratādeśanam vyākhyātam.
ity anupetapūrvasya. athopetapūrvasya 「これによって、剃髪に始まり [神々へ
の] 委ねに終わるヴラタ教示が説明された。以上が、以前に入門したことのない
者の場合。次に、以前に入門したことがある者の場合。」 Cf. 梶原上掲論文 p.
7f.; n.30.
- 10) Kane, *HDhŚ* II-1, p.370 および Gonda, *Vedic Ritual* p.462 によれば、
Āśvalāyana-Smṛti (未見) は同派の学習ヴラタを mahānāmnī, mahāvratā, upani-
ṣad, godāna の四つとする。Laghvāśvalāyanasṃti は mahānāmnīvrata, mahā-
vrata, upaniṣadvrata を挙げる (*Smṛtisandarbhā* 3, p.1724)。なお、この学派の
アーラニヤカ最終章 (AitĀ 5, 3, 3) には、Mahāvratā 祭の学習時において守
るべき事柄が述べられているが、学習ヴラタとしての mahāvratā との対応関係

は不明。

- 11) この二学派は同一学派の分派とみられるが、両派のグリヒヤーストラには多少の異同がみられる。H. Oldenberg, "Das Čāṅkhāyanagṛhyam," *Indische Studien* XV (1878), pp.4ff.; T. R. Chintamani, *The Kauṣītaka Gṛhyasūtras with the Commentary of Bhavatrāta*, New Delhi (1982), introduction (esp. pp.xviii-lxv) 参照。
- 12) ŚāṅkhGS 2, 11, 9-12 (cf. KauṣGS 2, 7, 8-16) ...śukriye brahmacaryaṃ ādiśet /9/ trirātram brahmacaryaṃ cared dvādaśarātram saṃvatsaram vā yāvad vā gurur manyeta /10/ śākvaram tu saṃvatsaram /11/ vrātikam aupaniṣadam ca /12/ 「śukriya におけるブラフマチャリヤを教示すべし。(KauṣGS では śukriya-brahmacārin になるための師弟の対話がここに加わる。) 三夜ブラフマチャリヤを行なうべし。または十二夜、または一年間。または師が [必要と] 思うだけ。(KauṣGS ではこの後 godānasya ca 「godāna の [ブラフマチャリヤ] も」という文が加わる。) 一方 śākvara は一年間である。vrātika (KauṣGS: mātāvratika) と aupaniṣada もまた。」ここでは brahmacarya の語がヴラタとはば同義で用いられているようである。
- 13) 梶原上掲論文 (2003), p.7; nn.21-22参照。
- 14) それぞれのヴラタと学習すべきテキストの対応について、Oldenberg は注釈に基づいて論じている (*SBE* 29, p.69, n.1, 1) が、A. Parpola は注釈の矛盾点を指摘し、vrātika の位置はジャイミニヤ派の影響を受けていること、aupaniṣada で学ぶテキストは注釈がいう Upaniṣad-Brāhmaṇa ではなく、失われたテキストであった可能性があることを論じている (*The Śrautasūtras of Lāṭyāyana and Drāhyāyana and their commentaries*, Helsinki (1968) I-1, pp.69-73)。
- 15) GGS 2, 10, 47-48 trirātram akṣāra(Knauer: -rā)lavanāśī bhavati /47/ tasyānte sāvitraś caruḥ /48/ 「三夜の間、刺激物と塩を食べない者となる。その終わりに、サヴィトリに捧げた粥が [献供される]。」; also KhGS 24, 32.
- 16) GGS 3, 1, 10ff; KhGS 2, 5, 6ff. 梶原上掲論文 (2003), p.7; nn.23-24参照。
- 17) JGS 1, 16: 15, 4 gaudānikavrātikaupaniṣadāḥ saṃvatsarās 「gaudānika, vrātika, aupaniṣada は [それぞれ] 一年間。」 JGS 1, 16: 15, 6 ādityavrātikāḥ saṃvatsara[h] 「ādityavrātika は一年間。」 JGS 1, 16: 15, 8 vrātikē vrataparvāditya-vrātikē śukriyāny aupaniṣada upaniṣadam śrāvayet 「vrātika では [Jaiminīya-Āraṇya-Gāna の] vrata-parvan [およびそれに続く arkaparvan, dvandvaparvan] を, ādityavrātika では śukriya [-parvan] を, aupaniṣada では upaniṣad [-parvan] を, 聞かせるべきである。」 JGS 1, 17: 15, 10 dvādaśa mahānāmnikāḥ saṃvatsarā nava ṣaṭ traya iti vikalpāḥ. saṃvatsaram ity eke pitrā cec chrutā mahānāmnyāḥ 「mahānāmnikā は十二年, 九年, 六年, 三年, と選択肢がある。ある人々は一年という, もし父が mahānāmni を聞いて (学んで) いれば。」 JGS の学習ヴラタと GGS, KhGS のそれとの対応については, Parpola, *The Śrautasūtras of Lāṭyāyana and Drāhyāyana*, pp.69-74; 藤井正人「最初期ウパニシヤッド文献の成立と伝承」『待兼山論叢』23 (1989), p.14f. 参照。

- 18) JGS 1, 12: 13, 3ff. ヴラタに入るマントラが指示されたあと、師が再び（すでに JGS 1, 12: 11, 19 で行なった、brahmacāry asi... で始まる通常の教示とは異なる文言で）学生に生活心得を教示し、その後学生は三夜、刺激物や塩を食べないといわれる。
- 19) JGS 1, 18: 16, 9ff. 梶原上掲論文（2003）, p.7 ; n.26参照。
- 20) その他, KāthGS には以下の規定がある：1,1-2,4 (brahmacārin の全般的ヴラタ)；4,1-25 (48年間の学習に関するヴラタ：snātaka に関するものか)；8,1-7 (ヴラタに入る規定：kṛcchra に関するものか)；10,1-2 (upaniṣadarha 「ウパニシャッドにふさわしい者」)。
- 21) Upanayanavidhi については, M. Witzel, “Die Kāṭha-Śikṣā-Upaniṣad und ihr Verhältnis zur Śikṣāvallī der Taittirīya-Upaniṣad,” WZKS 23 (1979), p.13 参照。Devapāla 注は pravargya-mantra 以降のヴラタについて KāthĀ および Taittirīya-Āraṇyaka を引用して詳細に述べる (M. Kaul Shāstrī ed., *The Laugākṣhi-Gṛhya-Sūtras with the Bhāṣyam of Devapāla*, vol.2, Bombay (1934), pp. 51-104)。Cf. Witzel, “An Unknown Upaniṣad of the Kṛṣṇa Yajurveda: The Kāṭha-Śikṣā-Upaniṣad,” *Journal of the Nepal Research Centre* 1 (1977), pp.152-153.
- 22) KāthGS 43, 1-2 athātaś cāturhautṛkam /1/ brahmacārikalpena vratam upaiti 「さて次に, cāturhautṛka. ブラフマチャーリンの方法によってヴラタに入る。」
- 23) KāthGS 44, 1 ṣoḍaśe varṣe godānam agnau vā samāpte 「16の歳に, Godāna. または Agni が終わった時に。」Devapāla 注：godānavratam agnyadhyayane samāpta ity arthaḥ 「Agni の学習が終わった時に godānavrata が [行われる] という意」, Ādityadarśana 注：bahviṣṭake hiraṇyagarbhānte paṭhita ity arthaḥ 「hiraṇyagarbha を最後とする多くの煉瓦に関する [章] が学ばれた時という意。」Caland, *The Kāṭhaka-gṛhyasūtra*, Lahore (1925), p.187, n.2: “bahviṣṭaka is apparently a designation of the agnicayana part of the Yajurveda (Kāth XIX.1 sqq.).”
- 24) Pravargya 祭には同祭のテキストを学ぶ行為を含む avāntaradikṣā 「中間潔斎」が付されている。Pravargya 祭はシュラウタ祭であるため, avāntaradikṣā も通常はシュラウターストラで扱われる。MŚS 4, 7, 1-9 avāntaradikṣām upai-syann... /1/ ...agne vratapata iti vratam pradāyāditaḥ pañcaviṃśatim anuvākān anuvācayet /4/... traividyaḥ ca caret /8/ 「avāntaradikṣā に入ろうとする者は…『アグニよ, ヴラタの主よ』と言ってヴラタを与え, [Pravargya の章の] 最初から25章を学ばせるべし。...traividya も行なうべし。」MGS は Pravargya 学習の説明で上の MŚS 4, 7, 4 を引用している：MGS 1, 23, 21-23 rahasyam adhyeṣyamānaḥ pravargyam /21/... āditaḥ pañcaviṃśatyanuvākān anuvācayet /23/ 「Rahasya を学ぼうとする者は, Pravargya を。…最初から25章を学ばせるべし。」avāntaradikṣā については J. A. B. van Buitenen, *The Pravargya. An*

- Ancient Indian Iconic Ritual Described and Annotated*, Poona (1968), pp.38-41; Appendix I 参照。
- 25) MGS 1, 23, 24 traividyakam upanayanena vyākhyātam 「traividhyaka は入門式によってすでに説明された。」
- 26) MGS 1, 21, 13 etena tu kalpena ṣoḍaśe varṣe godānam. agniṁ vādhyesya-mānasyāgnir (comm.: agni-) godāniko maitrāyaṇir iti śrutiḥ 「一方この (Cūḍā の) 方法によって、16の歳に Godāna。あるいは Agni を学ぼうとしている者に。『Maitrāyaṇi の Agni は godānika (Godāna に関連する)』と聖典は [いう。]」 VārGS 9, 1 ṣoḍaśavarṣasya godānam/ agniṁ vādhyesyamāṇasya/ agnigodāno maitrāyaṇiḥ/ 「16歳の者に Godāna。あるいは Agni を学ぼうとしている者に。Maitrāyaṇi は Agni のための Godāna を行なう者である。」 agnigodāna- の語は黒ヤジュルヴェーダの Godāna 儀礼に頻出する語であり (VārGS 9, 1; BaudhGS 3, 2, 57; BhārGS 1, 10: 10, 15; HGS 2, 1, 6, 18; ĀpGS 6, 16, 13; ĀgGS 2, 2, 5: 54, 15; cf. MGS 1, 21, 13), Godāna を行なう時期 (16歳) と Agnicayana の学習時期の一致を示唆するものかと思われる。KaṭhGS 44, 1 (上記の注23) を参照。
- 27) BaudhGS 3, 1, 21-24 は, Prajāpati, Soma, Agni, Viśve Devāḥ の諸神格に属する kāṇḍa として, pauroḥāsika, yājamāna に始まり, paśuhautra, upaniṣada に至る諸項目を列挙し, 3, 1, 25 では svāyambhuvam kāṇḍam を挙げる。3, 1, 26-27 は kārīri-vrata, kārāvratā の名を挙げるが, これら二つは以下に述べる学習ヴラタには入っておらず詳細は不明 (kārīri-vrata の名は ĀgGS 1, 2, 1: 14: 3 にもみられる)。続いて学習ヴラタが列挙される: BaudhGS 3, 2, 3-4 kāṇḍekāṇḍe ca vratacaryā /3/ 「カランダごとにヴラタ行が [行なわれる。]」 athenāni brāhmaṇāni sām̐vatsarikair vratair adhyeyāni bhavanti, hotāraś śukriyāṇy upaniṣado godānam sammitam iti /4/ 「さて, これらのブラーフマナは, 一年間のヴラタによって学ばれるべきものである。すなわち hotāra, śukriya, upaniṣad, godāna, sammita [というヴラタによって]。」この後それぞれのヴラタが説明されるが, śukriya の説明は省かれる: BaudhGS 3, 2, 28 teṣām uktā vratacaryā 「それらのヴラタの行いはすでに述べられた。」 śukriya は BaudhŚS 9, 19 の avāntaradīkṣā に対応するものか。avāntaradīkṣā は BaudhGS 3, 4, 1-36 でも扱われ, agne vratapate śukriyam vrataṁ carisyāmi... (BaudhGS 3, 4, 16) というマントラを含み, śukriya-vrata をさすようである。W. Caland は, 上記の箇所をもとに各ヴラタと学習項目を対応させた表を提示しているが, 表にはいくつかの矛盾点がみられる (*Über das rituelle Sūtra des Baudhāyana*, Leipzig (1903), pp. 32-33)。
- 28) BaudhGS 3, 2, 52-57 ṣoḍaśe varṣe godānam /52/ ...agnigodāno vā bhavati /57/ 「16の歳に Godāna。…あるいは Agni のための Godāna を行なう者となる。」
- 29) パーラドヴァージャ派の avāntaradīkṣā はシュラウターストラにもある

(BhārŚS 11, 21-22)。通常シュラウターストラで扱われるこの儀礼が BhārGS にみられることについては, van Buitenen, *The Pravargya*, p.38, n.120 参照。グリヒヤーストラではほかに BaudhGS 3, 4, 1-36 と ĀgGS 1,2,3 が avāntaradīkṣā を扱う。

- 30) BhārGS 1, 10: 10, 11 athāśya ṣoḍaśavarṣasya godānaṃ kurvanti ... saṃvatsaraṃ kṛtagodāno brahmācāryaṃ caraty. agnigodāno vā bhavati 「次に彼が16歳になると彼のために人々は Godāna を行なう。...Godāna を行なった者は一年間ブラフマチャリヤを行なう。あるいは Agni のための Godāna を行なう者となる。」
- 31) ただし avāntaradīkṣā がシュラウターストラにある (HŚS 24, 8, 1-41)。
- 32) HGS 1, 2, 8, 1-8.
- 33) HGS 1, 2, 6, 6-7. 梶原上掲論文 (2003), p.8; n.32参照。
- 34) HGS 2, 1, 6, 15-18 evaṃ vihitam ṣoḍaśe varṣe godānakarma /15/ ...agnigodāno vā bhavati /18/ 「このような方法で (Cūḍā と同じく) 16の歳に Godāna 儀礼。…あるいは Agni のための Godāna を行なう者となる。」
- 35) ただし avāntaradīkṣā がシュラウターストラにある (ĀpŚS 15, 20-21)。
- 36) ĀpGS 6, 16, 12-14 evaṃ godānam anyasminn api nakṣatre ṣoḍaśe varṣe /12/ agnigodāno vā syāt /13/ saṃvatsaraṃ godānavratam ity eka upadiśanti /14/ 「[Caula と] 同様に Godāna. その他の星宿でも。16の歳に。または Agni のための Godāna を行なう者となるべし。ある人々は『godāna-vrata は一年間』と教える。」
- 37) ただし avāntaradīkṣā がグリヒヤーストラで扱われている (ĀgGS 1, 2, 3)。
- 38) ĀgGS 1, 2, 1: 14, 3. Cf. BaudhGS 3, 1, 26-27 (kāṛīri-vrata, kāṛāvratā). 注27参照。
- 39) 各ヴラタの学習箇所として引用されている pratika については, Caland, *Vaikhāṇasa-smartasūtram. The Domestic Rules and Sacred Laws of the Vaikhāṇasa School Belonging to the Black Yajurveda*, pp.53-55. ヴラタの名称は前述の BaudhGS の学習項目を支配する神格とよく一致する (注27参照)。
- 40) ただし, 16歳の鬚剃り式 (PGS では Keśānta とよぶ) の後には一年ないし十二夜, 六夜, 三夜のブラフマチャリヤが規定されている (PGS 2, 1, 25)。
- 41) ただし, KauśS 42, 12-18 は卒業式で vrata を出ることについて述べている。
- 42) Atharvaveda-Pariśiṣṭa 46 (Uttamaṇḍalam). B. R. Modak, *The Ancillary Literature of the Atharvaveda*, New Delhi (1993) は Atharvaveda-Pariśiṣṭa 46, 8, 3 に列挙された sāvitṛī, veda, kalpa, maila, mailottara, saṃmita をバラモンが行なうべき六つのヴラタとしている。
- 43) ただし GGS/KhGS のヴラタの順序については注14参照。また, Parpola は学習ヴラタはサンヒターに集成されたサーマンの学習に対応すると考えているが, 藤井はそれぞれのサーマンに関係するブラフマナおよびウパニシャッドもそれぞれのヴラタに割り当てられていたと推測している (藤井上掲論文 p.19f.)。

- 44) GGS 3, 5, 21f.; JGS 1, 19: 18, 10ff.; PGS 2, 5, 32ff.; BaudhGṛhyaparibhāṣā 1, 15, 1 (veda-snātaka, vrata-snātaka, veda-vrata-snātaka); cf. Āpastamba-Dharmasūtra 1, 11, 30, 1-3; Manu-Smṛiti 4, 31; cf. also VārGS 6, 33f. (二種の snātaka).

略号

- ĀgGS = Āgniveśya-Gṛhyasūtra
 ĀpGS = Āpastamba-Gṛhyasūtra
 ĀpŚS = Āpastamba-Śrautasūtra
 ĀśvGS = Āśvalāyana-Gṛhyasūtra
 ĀśvŚS = Āśvalāyana-Śrautasūtra
 AitĀ = Aitareya-Āraṇyaka
 AVP = Atharvaveda, Paippalāda-Saṃhitā
 AVŚ = Atharvaveda, Śaunaka recension
 BaudhGS = Baudhāyana-Gṛhyasūtra
 BaudhŚS = Baudhāyana-Śrautasūtra
 BhārGS = Bhāradvāja-Gṛhyasūtra
 BhārŚS = Bhāradvāja-Śrautasūtra
 GGS = Gobhila-Gṛhyasūtra
 HGS = Hiraṇyakeśi-Gṛhyasūtra
 HŚS = Hiraṇyakeśi-Śrautasūtra
 JGS = Jaimini-Gṛhyasūtra
 KāthĀ = Kāṭha-Āraṇyaka
 KāthB(u) = Kāṭha-Brāhmaṇa (Upanayana-Brāhmaṇa)
 KāthGS = Kāṭhaka-Gṛhyasūtra
 KauṣGS = Kauṣītaka-Gṛhyasūtra
 KauśS = Kauśika-Sūtra
 KhGS = Khādīra-Gṛhyasūtra
 MGS = Mānava-Gṛhyasūtra
 MŚS = Mānava-Śrautasūtra
 PGS = Pāraskara-Gṛhyasūtra
 ŚāṅkhGS = Śāṅkhāyana-Gṛhyasūtra
 ŚB = Śatapatha-Brāhmaṇa
 TĀ = Taittirīya-Āraṇyaka
 VārGS = Vārāha-Gṛhyasūtra
 VaikhGS = Vaikhāṇasa-Gṛhyasūtra

(花園大学非常勤講師)